

小原重哉 さげら じげい 監獄改良家、繪畫研究家。天保五年八月十七日備前國上道郡倉田生れ、明治二十五年五月二十七日歿（八三四―九〇二）。幼名澄太郎。號米華。文武を修め、藤本鐵石等の勤王派の同調。元治元年同志と新撰組隊士松山幾之助を暗殺、一日藩獄に入るも、牧野權之助の推転で土籍を得た。維新後司法省に出仕、判事、監獄司次長として獄制改善に當つた。また平生繪畫に親しんで造詣深く、繪畫共進會、内國勸業博覽會、美術部等の審査員を務めた。貴族院議員。

著書に『監獄別註釋』（明治十五年八月小原重雄刊）、『養徳訓話』（明治二十一年九月）二十六年金港堂）、『日本邦監獄法講義』（明治二十四年九月四日監獄官練習所）、『上香堂畫譚』全一冊（明治二十九年十一月二十四日東陽堂）等。

